



小林市立永久津小学校 校長通信

令和7年9月5日 第67号 (文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3515 E-mail:nagakutukko@miyazaki-c.ed.jp

静まり返っていた学校に子どもたちの元気な声が戻り、無事一学期後半が始りました。

今年の夏は、記録的な気温の上昇やなかなか終わらない新燃岳の活動、度重なる短時間の大雨で、各地に人的・物的被害がありました。心よりお見舞い申し上げます。

さて、7月30日には、教育委員会主催の「学校の在り方に関する意見交換会」が開催されました。その中で、近い将来、想像以上のスピードで学校の児童生徒数が減少していくことが説明されました。今後も、引き続き保護者や地域の声を聞きたいとのことですので、次の機会にはぜひご参加ください。

子どもたちには、まずは体調を整え、もうしばらく暑さを上手に避けながら、一学期のまとめに向けて頑張ってほしいと思います。

「もう9月つかよ。年がいくと（年を取ると）、いつき一年が経つとが早えがねえ…。」
いい年齢になつた私は、節を迎えるたびに「時」の流れの速さに驚きます。

実はこれには法則が存在し、その昔、フランスの哲学者が、「年月の長さは、若いと長く、年長者は短く感じる。」と心理的に説明したそうです。その人の名をとって「ジャネーの法則」と言われています。60歳の私にとって一年は六十分の一、6歳の子どもにとっては六八の一。年齢を重ねることに人生の一年間が小さくなるのが「時」を早く感じるとか。もつとショッキングな説明によると、人生を80年とします場合、人は20歳になると人生の70%は終わつたと体感し、50歳で90%。私などは、もともと人生の終末を感じている年齢というわけです。

これには、過ぎし方や経験が影響しているようです。子どものように新しい発見や失敗と成功を繰り返す学びのある毎日は、日ごと自分の成長を感じ、充実しています。このような過ごし方は、十分に一年分の「時」を感じるでしょう。私のように漫然と過ごしていれば、同じような毎日を繰り返して「もう一年たつたのか!」と驚くわけです。

また、経験によって「時」の感じ方は変わります。経験を重ねると物事との出会いにワクワク感が小さくなるのはよく理解できます。刺激の少ない日常を重ねていると、いつの間にか実際の「時」が自分の「時」を追い越してしまいます。「一年しかないから」とあきらめるか、「一年あれば」と挑戦するか、「時」の受け止め方が違えば、目標の立て方も変わるでしょう。

しかし、これはあくまで自分の感じ方。私のような年寄りでも法則に逆らい、時間を長く感じるほど充実した毎日を送りたいのです。

そのためには、子どもの頃の気持ちを取り戻してみる。つまり「新しい経験を大切にすること」がひとつ のヒントになりそうです。

自分の経験の範囲で物事を処理すれば、苦労はしませんがワクワクもしません。日々の仕事をこなしながらも、チャンスがあれば新しい考え方や方法に挑戦することで、新鮮な一日が生まれるでしょう。新鮮な一日で得られた充実感が重なれば、結果として「いい一年を過ごした。」と実感するはずです。いつも新しいことに挑戦している人が若々しいのも頷けます。

人生百年の時代。年は重ねても、子どもから輝いて見える「挑戦する大人」を目指したいたいと思います。

「時（とき）」の感じ方

手洗いをしっかり！ これまでにない症状や感染力の強いウイルスの情報があります。私たちはコロナ禍で手洗いがどれだけ大切かを学びました。一日にいつ、何のときに、何回手を洗っていますか。手洗いの習慣が薄れていかないか、家族で点検してみましょう。

学校近況スナップ

「保育園で勉強しました！」

夏休みに職員みんなで永久津保育園を訪問しました。

園長先生から保育の方針や施設の説明を受けながら、実際の保育の様子を見たり、園児さんに小学校の紹介をしたりしました。

これから小学校では、安心して入学していただく準備を進めていきます。



「被害もなく 大きく育っています」

6月20日に5年生と中学生で植えた
もち米の8月末の様子です。

保護者や地域の方が水の管理や田んぼ
のまわり(畦)の草刈りなどの世話をして
くださっているおかげです。
これからも成長を見守りましょう。



日頃の子どもたちの様子やお知らせ、
行事の計画などは学校HPも見てくださいね。
(URL) <https://cms.miyanaki-c.ed.jp/1408/>